

注3

**大学番号：私151**

[平成30年度設置]

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

**届出**

金沢工業大学 工学部 電気電子工学科

金沢工業大学 工学部 環境土木工学科

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人金沢工業大学  
令和元年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	大学事務局
職名・氏名	次長・新井 <sup>アライ</sup> <sup>シンジ</sup> 真二
電話番号	076-294-6399
（夜間）	076-248-1100（代表）
F A X	076-294-6701
e-mail	syomu@mlist.kanazawa-it.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
  - 大学の設置の場合：「〇〇大学」
  - 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
  - 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
  - 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
  - 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
  - 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
  - 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
  - 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 工学部

＜電気電子工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	43
7. その他全般的事項	45

＜環境土木工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	51
2. 授業科目の概要	55
3. 施設・設備の整備状況、経費	63
4. 既設大学等の状況	64
5. 教員組織の状況	67
6. 附帯事項等に対する履行状況等	88
7. その他全般的事項	90

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人金沢工業大学

## (2) 大学名

金沢工業大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒921-8501

石川県野々市市扇が丘7番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イヅミヤ トシオ) 泉屋 利郎 (平成4年6月)	(イヅミヤ ヨシオ) 泉屋 吉郎 (平成30年6月)	辞任のため 平成30年6月1日 (元)
学長	(オオサワ サトシ) 大澤 敏 (平成28年4月)		
学部長	(タカノ ノリユキ) 高野 則之 (平成30年4月)		
学科長等	(ヤマグチ アツシ) 山口 敦史 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工学部 電気電子工学科 学士(工学)	工学関係	4 年	240 人	/	960 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	240 ( ) [ ]	-	240 ( ) [ ]	-	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	1.05 倍	— 倍	
志願者数	1337 ( ) [ ]	-	1370 ( ) [ ]	-	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
受験者数	1316 ( ) [ ]	-	1351 ( ) [ ]	-	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
合格者数	783 ( ) [ ]	-	791 ( ) [ ]	-	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
B 入学者数	257 ( ) [ ]	-	249 ( ) [ ]	-	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	1.07		1.03								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。  
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	257 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	270 [ - ] ( 21 )	- [ - ] ( - )					
2年次	/		226 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )					
3年次			/						
4年次	/								
計			257 [ - ] ( - )		496 [ - ] ( 21 )				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	257 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	496 人	8 人	平成30年度	8 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への転学(3人)、就職(1人)、除籍(1人)、その他(2人)
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
合 計		8 人		8 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{257} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{496} = \boxed{1.61} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<工学部 電気電子工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
修学基礎科目	修学基礎A	1前	2								34
	修学基礎B	1後	2								34
	技術者と社会	2前・後	2								4
	小計(3科目)	-									
人文社会科学・外国語	日本学(日本と日本人)A	2前・後	1								2
	日本学(日本と日本人)B	2前・後	1								2
	科学技術者倫理	3前・後	2								6
	技術マネジメント	3前・後	2								4
	日本文学の世界	4前・2後		2							1
	人間と哲学	4前・2後		2							1
	法と社会	4前・2後		2							1
	経済と社会	4前・2後		2							1
	ころとはたらき	4前・2後		2							2
	ドイツ語圏と日本	4前・2後		2							1
	東アジア諸国の社会と文化	4前・2後		2							2
	アメリカの文化と風土	4前・2後		2							1
	イギリス文化圏の人々と風土	4前・2後		2							1
	韓国の文化と社会	4前・2後		2							1
	芸術へのアプローチ	4前・2後		2							1
	科学技術と社会	4前・2後		2							2
人間形成基礎科目	技術者のためのコミュニケーション	4前・2後		2							1
	国際関係論	3前		2							1
	危機管理論	3前		2							1
	日本国憲法	3前・後		2							2
	ドイツ語Ⅰ	3前		2							1
	ドイツ語Ⅱ	3後		2							1
	中国語Ⅰ	3前		2							2
	中国語Ⅱ	3後		2							2
	韓国語Ⅰ	3前		2							1
	韓国語Ⅱ	3後		2							1
生涯スポーツ	健康・体づくり	1前	1								6
	生涯スポーツ演習	1後	1								6
人間と自然	人間と自然セミナーⅠ	1前									4
	人間と自然セミナーⅡ	2前・後									4
	人間と自然セミナーⅢ	3後									4
生涯学習	指定放送大学科目 生涯学習特別講義 工業概論	2前		2							1
	小計(34科目)	-									
英語科目	イングリッシュトピックスⅠ	1前		2							3
	イングリッシュトピックスⅡ	1後		2							8
	イングリッシュトピックスⅢ	1・2前		2							4
	イングリッシュトピックスⅣ	1・2後		2							7
	イングリッシュトピックスⅤ	1・2前		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1・2後		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅡ	2前		2							2
	アカデミックリーディングⅠ	1・2後		2							2

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
修学基礎科目	修学基礎A	1前	2								40
	修学基礎B	1後	2								40
	技術者と社会	2前・後	2								6
	小計(3科目)	-									
人文社会科学・外国語	日本学(日本と日本人)A	2前・後	1								2
	日本学(日本と日本人)B	2前・後	1								3
	科学技術者倫理	3前・後	2								6
	技術マネジメント	3前・後	2								4
	日本文学の世界	4前・2後		2							1
	人間と哲学	4前・2後		2							1
	法と社会	4前・2後		2							1
	経済と社会	4前・2後		2							1
	ころとはたらき	4前・2後		2							2
	ドイツ語圏と日本	4前・2後		2							1
	東アジア諸国の社会と文化	4前・2後		2							2
	アメリカの文化と風土	4前・2後		2							1
	イギリス文化圏の人々と風土	4前・2後		2							1
	韓国の文化と社会	4前・2後		2							1
	芸術へのアプローチ	4前・2後		2							1
	科学技術と社会	4前・2後		2							1
人間形成基礎科目	技術者のためのコミュニケーション	4前・2後		2							1
	国際関係論	3前		2							1
	危機管理論	3前		2							1
	日本国憲法	3前・後		2							2
	ドイツ語Ⅰ	3前		2							1
	ドイツ語Ⅱ	3後		2							1
	中国語Ⅰ	3前		2							2
	中国語Ⅱ	3後		2							2
	韓国語Ⅰ	3前		2							1
	韓国語Ⅱ	3後		2							1
生涯スポーツ	健康・体づくり	1前	1								7
	生涯スポーツ演習	1後	1								7
人間と自然	人間と自然セミナーⅠ	1前									4
	人間と自然セミナーⅡ	2前・後									4
	人間と自然セミナーⅢ	3後									4
生涯学習	指定放送大学科目 生涯学習特別講義 工業概論	2前		2							1
	小計(34科目)	-									
英語科目	イングリッシュトピックスⅠ	1前		2							6
	イングリッシュトピックスⅡ	1後		2							8
	イングリッシュトピックスⅢ	1・2前		2							6
	イングリッシュトピックスⅣ	1・2後		2							7
	イングリッシュトピックスⅤ	1・2前		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1・2後		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅡ	2前		2							3
	アカデミックリーディングⅠ	1・2後		2							2

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語科目	アカデミックリーディングⅡ	2前		2								1
	ライティングプレゼンテーションⅠ	1-2後		2								2
	ライティングプレゼンテーションⅡ	2前		2								1
	イングリッシュセミナーⅠ	1-2後		2								2
	イングリッシュセミナーⅡ	2前		2								1
	実用英語演習Ⅰ	1前		2								2
	実用英語演習Ⅱ	1前		2								3
	インテンシブイングリッシュ	2前		2								1
その他	日本語教育科目											1
	小計(17科目)	-										
数理基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2									12
	線形代数Ⅱ	1後		2								12
	工学のための数理工(関数・微分)	1前		4								13
	工学のための数理工(積分・微分方程式)	1後		4								15
	機械数学	1後		2								
	電気数学	1後		2								
	情報数学	1後		2								2
	環境・建築のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								7
	環境・建築のための数理工(微分・積分)	1後		2								1
	情報のための数学	1前		4								6
	基礎情報数理	1後		4								4
	情報のための統計	1前		2								2
	情報数理A	1後		2								2
	情報数理B	2前		2								2
	アドバンス情報数理A	2後		2								1
	アドバンス情報数理B	2後		2								1
	バイオ・化学のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								3
	バイオ・化学のための統計	1後		2								3
	バイオ・化学のための数理工(微分・積分)	1後		4								3
	基礎化学	1前・2前		2								3
	基礎物理	1前・2前		2								5
	基礎生物	2前・後		2								2
	技術者のための統計	2前・後		2								6
	アドバンス数理A	2前		2								7
	アドバンス数理B	2後		2								2
		小計(26科目)	-									
基礎実技科目	プロジェクトデザイン入門(実験)	1前		2								15
	プロジェクトデザインⅠ	1後		2								14
	プロジェクトデザインⅡ	2前		2								12
	プロジェクトデザイン実験(実験)	2後		2								12
	コンピュータ操作の基礎	1前		2								2
	小計(5科目)	-										
専門科目	工学大意(電気電子)	1前		2			3	1	1			
	電気回路Ⅰ	1前		4			2	1	1			
	電気回路Ⅱ	1後		2			2	1	1			
	電気磁気学Ⅰ	1後		4			3					
	電気製図	1後		1			2					
	アカデミックライティング	2前		1			2		2			
	電気回路Ⅲ	2前		2			2	1	1			
	電気磁気学Ⅱ	2前		2			2		1			
	電子回路Ⅰ	2前		4			2	1				
	電気系プログラミング演習	2前		3			2		1			
	電子工学	2前		2			1		1			
	電気系コンピュータ工学	2後		2			2					
	電気磁気学Ⅲ	2後		2			2					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語科目	アカデミックリーディングⅡ	2前		2								2
	ライティングプレゼンテーションⅠ	1-2後		2								2
	ライティングプレゼンテーションⅡ	2前		2								1
	イングリッシュセミナーⅠ	1-2後		2								2
	イングリッシュセミナーⅡ	2前		2								1
	実用英語演習Ⅰ	1後		2								2
	実用英語演習Ⅱ	1後		2								3
	インテンシブイングリッシュ	2前		2								1
その他	日本語教育科目											1
	小計(17科目)	-										
数理基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2									17
	線形代数Ⅱ	1後		2								20
	工学のための数理工(関数・微分)	1前		4								18
	工学のための数理工(積分・微分方程式)	1後		4								17
	機械数学	1後		2								5
	電気数学	2後		2			1	1	1			
	情報数学	1前		2								2
	環境・建築のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								4
	環境・建築のための数理工(微分・積分)	1後		2								9
	情報のための数学	1前		4								5
	基礎情報数理	1前		4								4
	情報のための統計	1後		2								5
	情報数理A	1後		2								4
	情報数理B	2後		2								3
	アドバンス情報数理A	2前		2								1
	アドバンス情報数理B	2後		2								1
	バイオ・化学のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								3
	バイオ・化学のための統計	1後		2								3
	バイオ・化学のための数理工(微分・積分)	1後		4								3
	基礎化学	1前・2前		2								4
	基礎物理	1前・2前		2								5
	基礎生物	2前・後		2								2
	技術者のための統計	2前・後		2								8
	アドバンス数理A	2前		2								6
	アドバンス数理B	2後		2								1
		小計(26科目)	-									
基礎実技科目	プロジェクトデザイン入門(実験)	1前		2								45
	プロジェクトデザインⅠ	1後		2								32
	プロジェクトデザインⅡ	2前		2								42
	プロジェクトデザイン実験(実験)	2後		2								47
	コンピュータ操作の基礎	1前		2								8
	小計(5科目)	-										
専門科目	工学大意(電気電子)	1前		2				2	1	1		
	電気回路Ⅰ	1前		4				2	1	1		
	電気回路Ⅱ	1後		2				1	2	1		
	電気磁気学Ⅰ	1後		4				3				
	電気製図	1後		1				1				
	アカデミックライティング	2前		1				2	1	2		
	電気回路Ⅲ	2前		2				1	1	1		
	電気磁気学Ⅱ	2前		2				1		1		
	電子回路Ⅰ	2前		4				3	1			
	電気系プログラミング演習	2前		3				3		1		
	電子工学	2前		2				2	1	1		
	電気系コンピュータ工学	2後		2				3				
	電気磁気学Ⅲ	2後		2				3				



【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	電子回路Ⅱ	2後	2			3	1					
	過渡現象論	2後	2			2	1	2				
	電気電子計測	2後	2			3						
	高電圧パルスパワー工学	2後		2		1	1					
	電気材料	2後	2			1	1					
	物性工学	2後	2			1		1				
	情報通信システム	2後	2			1		1				
	音響・映像概論	2後	2			3						
	電気エネルギー発生工学	3前	2									
	電気機器Ⅰ	3前	2			2						
	自動制御	3前	2			2	1					
	電気回路Ⅳ（電気工学）	3前	2			2						
	電気回路Ⅳ（電子工学）	3前	2			2						
	半導体工学	3前	2			1						
	電子材料	3前	2			1						
	情報通信ネットワーク	3前	2			1						
	情報伝送工学	3前	2			1						
	音響工学	3前	2			1						
	電気エネルギー伝送工学	3後	2			1						
	電気機器Ⅱ	3後	2			1						
	パワーエレクトロニクス	3後	2			1						
	エネルギーデバイス工学	3後	2			1		1				
	光・電子デバイス工学	3後	2									
	電波工学	3後	2			1						
	通信工学	3後	2			1						
	音響・映像システム	3後	2					1				
光情報工学	3後	2			1							
電気電子工学専門実験A	3前	2			12	2	1					
電気電子工学専門実験B	3後	2			7	3	3					
電気設計	4前		3		1							
電気応用	4前		2		1							
電気法規と電気施設管理	4前		1		1							
電気通信法令	4前		2									
小計(46科目)		-										
専門プロジェクト	専門ゼミ	3後	1									
	プロジェクトデザインⅢ	4通	8									
	小計(2科目)		-									
その他	進路セミナーⅠ	3前		1								
	進路セミナーⅡ	3後		1								
	職業指導	4前・後		4							1	
	小計(3科目)		-									
合計(136科目)		-										
卒業要件及び履修方法												
4年以上在学し、かつ、下記の単位を修得し、生涯学習科目における指定放送大学科目の履修及び人間と自然科目に合格しなければならない。 「修学基礎科目」から6単位以上、「人間形成基礎科目」から12単位以上、「英語科目」から8単位以上、「数理基礎科目」から16単位以上、「基礎実技科目」から8単位以上、「専門科目」から59単位以上、「専門プロジェクト科目」から9単位以上、「人文社会科学・外国語、生涯学習、英語、数理基礎、基礎実技及び専門の科目群」から課程共通の6単位を修得し、全ての必修科目を含め、124単位以上を修得しなければならない。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間)、24単位(学期))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	電子回路Ⅱ	2後	2			3	1					
	過渡現象論	2後	2			2	2	2				
	電気電子計測	2後	2			3						
	高電圧パルスパワー工学	2後		2		2	1					
	電気材料	2後	2			1	1					
	物性工学	2後	2			2		1				
	情報通信システム	2後	2			2		1				
	音響・映像概論	2後	2			2						
	電気エネルギー発生工学	3前	2									
	電気機器Ⅰ	3前	2			2						
	自動制御	3前	2			2	1					
	電気回路Ⅳ（電気工学）	3前	2			2						
	電気回路Ⅳ（電子工学）	3前	2			2						
	半導体工学	3前	2			1						
	電子材料	3前	2			1						
	情報通信ネットワーク	3前	2			1						
	情報伝送工学	3前	2			1						
	音響工学	3前	2			1						
	電気エネルギー伝送工学	3後	2			1						
	電気機器Ⅱ	3後	2			1						
	パワーエレクトロニクス	3後	2			1						
	エネルギーデバイス工学	3後	2			1		1				
	光・電子デバイス工学	3後	2									
	電波工学	3後	2			1						
	通信工学	3後	2			1						
	音響・映像システム	3後	2					1				
光情報工学	3後	2			1							
電気電子工学専門実験A	3前	2			12	2	1					
電気電子工学専門実験B	3後	2			7	3	3					
電気設計	4前		3		1							
電気応用	4前		2		1							
電気法規と電気施設管理	4前		1		1							
電気通信法令	4前		2									
小計(46科目)		-										
専門プロジェクト	専門ゼミ	3後	1									
	プロジェクトデザインⅢ	4通	8									
	小計(2科目)		-									
その他	進路セミナーⅠ	3前		1								
	進路セミナーⅡ	3後		1								
	職業指導	4前・後		4							1	
	小計(3科目)		-									
合計(136科目)		-										
卒業要件及び履修方法												
4年以上在学し、かつ、下記の単位を修得し、生涯学習科目における指定放送大学科目の履修及び人間と自然科目に合格しなければならない。 「修学基礎科目」から6単位以上、「人間形成基礎科目」から12単位以上、「英語科目」から8単位以上、「数理基礎科目」から16単位以上、「基礎実技科目」から8単位以上、「専門科目」から59単位以上、「専門プロジェクト科目」から9単位以上、「人文社会科学・外国語、生涯学習、英語、数理基礎、基礎実技及び専門の科目群」から課程共通の6単位を修得し、全ての必修科目を含め、124単位以上を修得しなければならない。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間)、24単位(学期))												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
修学基礎科目	修学基礎A	1前	2									39
	修学基礎B	1後	2									38
	技術者と社会	2前・後	2									4
	小計(3科目)	-										
人文社会科学・外国語	日本学(日本と日本人)A	2前・後	1									2
	日本学(日本と日本人)B	2前・後	1									2
	科学技術者倫理	3前・後	2									6
	技術マネジメント	3前・後	2									4
	日本文学の世界	98・128・128	2									1
	人間と哲学	98・128・128	2									1
	法と社会	98・128・128	2									1
	経済と社会	98・128・128	2									1
	こころとはたらき	98・128・128	2									2
	ドイツ語圏と日本	98・128・128	2									1
	東アジア諸国の社会と文化	98・128・128	2									
	アメリカの文化と風土	98・128・128	2									1
	イギリス文化圏の人々と風土	98・128・128	2									1
	韓国の文化と社会	98・128・128	2									1
	芸術へのアプローチ	98・128・128	2									1
	科学技術と社会	98・128・128	2									2
	技術者のためのコミュニケーション	98・128・128	2									1
	国際関係論	3前	2									1
	危機管理論	3前	2									1
	日本国憲法	3前・後	2									2
ドイツ語 I	3前	2									1	
ドイツ語 II	3後	2									1	
中国語 I	3前	2										
中国語 II	3後	2										
韓国語 I	3前	2									1	
韓国語 II	3後	2									1	
生涯スポーツ	健康・体づくり	1前	1									6
	生涯スポーツ演習	1後	1									6
人間と自然	人間と自然セミナーⅠ	1前										4
	人間と自然セミナーⅡ	2前・後										4
	人間と自然セミナーⅢ	3後										4
生涯学習	指定放送大学科目 生涯学習特別講義 工業概論	2前	2									1
	小計(34科目)	-										
英語科目	イングリッシュトピックスⅠ	1前	2									4
	イングリッシュトピックスⅡ	1後	2									8
	イングリッシュトピックスⅢ	1・2前	2									8
	イングリッシュトピックスⅣ	1・2後	2									7
	イングリッシュトピックスⅤ	1・2前	2									5
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1・2後	2									4
	ビジネスコミュニケーションⅡ	2前	2									4
	アカデミックリーディングⅠ	1・2後	2									2
	アカデミックリーディングⅡ	2前	2									2
	ライティング・プレゼンテーションⅠ	1・2後	2									2
	ライティング・プレゼンテーションⅡ	2前	2									2
	イングリッシュセミナーⅠ	1・2後	2									2
	イングリッシュセミナーⅡ	2前	2									2
	実用英語演習Ⅰ	1後	2									2
実用英語演習Ⅱ	1後	2									3	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
英語科目	インテンシブイングリッシュ	2前		2							1
	日本語教育科目										1
	小計(17科目)	-									
数理基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2								16
	線形代数Ⅱ	1後		2							21
	工学のための数理工(関数・積分)	1前		4							16
	工学のための数理工(積分・微分方程式)	1後		4							14
	機械数学	1後		2							5
	電気数学	2後		2							
	情報数学	1前		2							2
	環境・建築のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4							5
	環境・建築系数理	1後		2							11
	環境・建築のための数理工(関数・積分)	1後		4							5
	情報のための数学	1前		4							4
	基礎情報数理	1前		2							5
	情報のための統計	1後		2							4
	情報数理A	1後		2							7
	情報数理B	2前		2							
	アドバンス情報数理A	2後		2							1
	アドバンス情報数理B	2後		2							1
	バイオ・化学のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4							3
	バイオ・化学のための統計	1後		2							2
	バイオ・化学のための数理工(関数・積分)	1後		4							3
	基礎化学	1前・2前		2							4
	基礎物理	1前・2前		2							6
	基礎生物	2前・後		2							2
	技術者のための統計	2前・後		2							6
	アドバンス数理A	2前		2							7
	アドバンス数理B	2後		2							2
小計(26科目)	-										
基礎実技科目	プロジェクトデザイン入門(実験)	1前	2								51
	プロジェクトデザインⅠ	1後	2								30
	プロジェクトデザインⅡ	2前	2								12
	プロジェクトデザイン実験(実験)	2後	2								12
	コンピュータ操作の基礎	1前		2							8
小計(5科目)	-										
専門科目	工学大意(電気電子)	1前	2			3	1	1			
	電気回路Ⅰ	1前	4			2	1	1			
	電気回路Ⅱ	1後	2			1	2	1			
	電気磁気学Ⅰ	1後	4			3					
	電気製図	1後	1			1					
	アカデミックライティング	2前	1			2		2			
	電気回路Ⅲ	2前	2			2	1	1			
	電気磁気学Ⅱ	2前	2			2		1			
	電子回路Ⅰ	2前	4			2	1				
	電気系プログラミング演習	2前	3			2		1			
	電子工学	2前	2			1		1			
	電気系コンピュータ工学	2後		2		2					
	電気磁気学Ⅲ	2後		2		2					
	電子回路Ⅱ	2後	2			3	1				
	過渡現象論	2後	2			2	1	2			
	電気電子計測	2後	2			3					
	高電圧パルスパワー工学	2後		2		1	1				
	電気材料	2後		2		1	1				
	物性工学	2後		2		1		1			
	情報通信システム	2後		2		1		1			
音響・映像概論	2後		2		3						

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	電気エネルギー発生工学	3前		2							
	電気機器Ⅰ	3前		2		2					
	自動制御	3前	2			2	1				
	電気回路Ⅳ（電気工学）	3前		2		2					
	電気回路Ⅳ（電子工学）	3前		2		2					
	半導体工学	3前		2		1					
	電子材料	3前		2		1					
	情報通信ネットワーク	3前		2		1					
	情報伝送工学	3前		2		1					
	音響工学	3前		2		1					
	電気エネルギー伝送工学	3後		2		1					
	電気機器Ⅱ	3後		2		1					
	パワーエレクトロニクス	3後		2		1					
	エネルギーデバイス工学	3後		2		1		1			
	光・電子デバイス工学	3後		2							
	電波工学	3後		2		1					
	通信工学	3後		2		1					
	音響・映像システム	3後		2				1			
	光情報工学	3後		2		1					
	電気電子工学専門実験A	3前	2			12	2	1			
	電気電子工学専門実験B	3後	2			7	3	3			
電気設計	4前		3		1						
電気応用	4前		2		1						
電気法規と電気施設管理	4前		1		1						
電気通信法令	4前		2								
小計(46科目)		-									
専門プロジェクト	専門ゼミ	3後	1								
	プロジェクトデザインⅢ	4通	8								
	小計(2科目)		-								
その他	進路セミナーⅠ	3前		1							
	進路セミナーⅡ	3後		1							
	職業指導	4前・後		4						1	
小計(3科目)		-									
合計(136科目)		-									

卒業要件及び履修方法

4年以上在学し、かつ、下記の単位を修得し、生涯学習科目における指定放送大学科目の履修及び人間と自然科目に合格しなければならない。  
 「修学基礎科目」から6単位以上、「人間形成基礎科目」から12単位以上、「英語科目」から8単位以上、「数理基礎科目」から16単位以上、「基礎実技科目」から8単位以上、「専門科目」から59単位以上、「専門プロジェクト科目」から9単位以上、「人文社会科学・外国語、生涯学習、英語、数理基礎、基礎実技及び専門の科目群」から課程共通の6単位を修得し、全ての必修科目を含め、124単位以上を修得しなければならない。  
 (履修科目の登録の上限:48単位(年間)、24単位(学期))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

- ・ 授業科目運営上の理由により、「実用英語演習Ⅰ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「実用英語演習Ⅱ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気数学」の配当年次を「1後」から「2後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「情報数学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「基礎情報数理」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「情報数値A」の配当年次を「2前」から「1後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「工学大意（電気電子）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由および担当教員の昇格により、「電気回路Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2准教授1講師1」から「教授1准教授2講師0」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気製図」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「修学基礎科目、人間形成基礎科目、英語科目、数理基礎科目、基礎実技科目」の一部科目において、兼任・兼任教員の人数を変更。

**【令和元年度】**

- ・ 授業科目運営上の理由により、「情報数理B」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「アドバンス情報数理A」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「工学大意（電気電子）」の専任教員等の配置を「教授3准教授1講師1」から「教授2准教授1講師1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「アカデミックライティング」の専任教員等の配置を「教授2講師2」から「教授2准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気回路Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授2准教授1講師1」から「教授1准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気磁気学Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2講師1」から「教授1講師1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電子回路Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2准教授1」から「教授3准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気系プログラミング演習」の専任教員等の配置を「教授2講師1」から「教授3講師1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電子工学」の専任教員等の配置を「教授1講師1」から「教授2准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気系コンピュータ工学」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気磁気学Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「過渡現象論」の専任教員等の配置を「教授2准教授1講師2」から「准教授2講師2」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「高電圧パルスパワー工学」の専任教員等の配置を「教授1准教授1」から「教授2」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気材料」の専任教員等の配置を「教授1准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「物性工学」の専任教員等の配置を「教授1講師1」から「教授3准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「情報通信システム」の専任教員等の配置を「教授1講師1」から「教授2」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「音響・映像概論」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「修学基礎科目、人間形成基礎科目、英語科目、数理基礎科目、基礎実技科目」の一部科目において、兼任・兼任教員の人数を変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
37	99	0	136	37	99	0	136	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{136} = \boxed{\phantom{0}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	国際高等専門学校と共用 法令上の必要面積 67,200 m <sup>2</sup> 運動場用地 (バス利用30 分、9km)			
	校 舎 敷 地	83,415.72 m <sup>2</sup>	233,876.39 m <sup>2</sup>	11,602.00 m <sup>2</sup>	328,894.11 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地	0 m <sup>2</sup>	205,687.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	205,687.00 m <sup>2</sup>				
	小 計	83,415.72 m <sup>2</sup>	439,563.39 m <sup>2</sup>	11,602.00 m <sup>2</sup>	534,581.11 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	76,987.00 m <sup>2</sup>	36,880.12 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	113,867.12 m <sup>2</sup>				
合 計	160,402.72 m <sup>2</sup>	476,443.51 m <sup>2</sup>	11,602.00 m <sup>2</sup>	648,448.23 m <sup>2</sup>					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	国際高等専門学校と共用 法令上の必要面積 70,147 m <sup>2</sup> 校舎を新築、増築 (元)				
	180,157.86 m <sup>2</sup> <del>178,951.96 m<sup>2</sup></del> ( 178,951.96 m <sup>2</sup> )	23,236.50 m <sup>2</sup> <del>20,755.98 m<sup>2</sup></del> ( 20,755.98 m <sup>2</sup> )	20,921.42 m <sup>2</sup> <del>20,622.37 m<sup>2</sup></del> ( 20,622.37 m <sup>2</sup> )	224,315.78 m <sup>2</sup> <del>220,330.31 m<sup>2</sup></del> ( 220,330.31 m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	85 室	119 室	114 室	6 室 (補助職員 2 人)	1 室 (補助職員 1 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		退職及び新規採用の結果、 6名減となった (30)			
	大学全体			298 304	室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学生の修学環境の改善の ため (元)	
	大学全体	572,306 [140,404] <del>561,921 [139,650]</del> (572,306 [140,404])	701 [19] <del>722 [21]</del> (701 [19])	322 [307] <del>315 [300]</del> (322 [307])	12,753 <del>24,753</del> (12,753)	1,812 <del>1,575</del> (1,812)	0 <del>0</del> (0)		
	計	572,306 [140,404] <del>561,921 [139,650]</del> (572,306 [140,404])	701 [19] <del>722 [21]</del> (701 [19])	322 [307] <del>315 [300]</del> (322 [307])	12,753 <del>24,753</del> (12,753)	1,812 <del>1,575</del> (1,812)	0 <del>0</del> (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	8,155.13 m <sup>2</sup>		1,617 席		1,000,000 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	7,085.83 m <sup>2</sup>		天池自然学苑 (運動用地) 205,687.00 m <sup>2</sup>   野球場1面、陸上競技場、ゴルフ 場、テニスコート4面						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には電子 ジャーナル、データベ ースを含む
		教員1人当り研究費等	1,430 千円	1,430 千円	図書購入費	14,500 千円	14,500 千円	14,500 千円	
	共 同 研 究 費 等	16,500 千円	16,500 千円	設備購入費	7,500 千円	11,500 千円	11,500 千円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、寄附金収入、補助金収入、雑収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号 (その1の1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	金沢工業大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
<b>工学部</b>	4	880	-	3,520	学士 (工学)	1.13	-	昭和40年度	-	
機械工学科	4	200	-	800	学士 (工学)	1.08	-	昭和40年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
航空システム工学科	4	60	-	240	学士 (工学)	1.10	-	平成16年度	同上	
ロボティクス学科	4	100	-	400	学士 (工学)	1.12	-	平成16年度	同上	
電気電子工学科	4	240	-	960	学士 (工学)	1.05	-	平成30年度	同上	
電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
電子情報通信工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
情報工学科	4	200	-	800	学士 (工学)	1.20	-	平成24年度	同上	
環境土木工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.22	-	平成30年度	同上	
情報フロンティア学部	4	240	-	960	学士 (情報学)	1.01	-	平成16年度	-	
メディア情報学科	4	120	-	480	学士 (情報学)	1.26	-	平成16年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
経営情報学科	4	60	-	240	学士 (情報学)	0.82	-	平成16年度	同上	
心理科学科	4	60	-	240	学士 (情報学)	0.73	-	平成16年度	同上	
<b>建築学部</b>	4	200	-	800	学士 (工学)	1.12	-	平成30年度	-	
建築学科	4	200	-	800	学士 (工学)	1.12	-	平成30年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
<b>環境・建築学部</b>	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	-	
建築デザイン学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	平成30年より学 生募集停止
建築学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
環境土木工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
<b>バイオ・化学部</b>	4	160	-	640	学士 (理工学)	0.95	-	平成20年度	-	
応用化学科	4	80	-	320	学士 (理工学)	0.91	-	平成20年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
応用バイオ学科	4	80	-	320	学士 (理工学)	1.00	-	平成20年度	同上	
大学全体	4	1,480	-	5,920	-	1.07	-	-	-	
<b>工学研究科博士前期 (修士)課程</b>		119	-	234		1.54	-	-	-	
機械工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	3.82	-	昭和53年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
環境土木工学専攻	2	10	-	20	修士 (工学)	0.75	-	昭和53年度	同上	
情報工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	0.80	-	昭和53年度	同上	
電気電子工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	2.19	-	昭和55年度	同上	
システム設計工学専攻	2	8	-	16	修士 (工学)	1.00	-	平成2年度	同上	
バイオ・化学専攻	2	18	-	36	修士 (理工学)	1.07	-	平成2年度	同上	



建築学専攻	2	16	-	32	修士 (工学)	1.12	-	昭和55年度	同上	
高信頼ものづくり 専攻(2年制)	2	3	-	6	修士 (工学)	0.85	-	平成19年度	同上	
高信頼ものづくり 専攻(1年制)	1	4	-	4	修士 (工学)	0.00	-	平成19年度	同上	
ビジネスアーキテ クト専攻(2年制)	2	6	-	12	修士 (工学)又は (経営情報)	0.24	-	昭和57年度	同上	
ビジネスアーキテ クト専攻(1年制)	1	-	-	-	修士 (工学)又は (経営情報)	-	-	平成21年度	東京都港区愛宕1-3- 4 愛宕東洋ビル12F	平成28年より学 生募集停止
心理科学研究科修士課程	2	6	-	12		0.91	-	-	-	
臨床心理学専攻	2	6	-	12	修士 (心理学)	0.91	-	平成16年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
イノベーションマネ ジメント研究科修士課程	1	40	-	40		1.04	-	-	-	
イノベーション マネジメント専攻	1	40	-	40	修士 (経営管理) 又は(知的財 産マネジメント)	1.04	-	平成28年度	東京都港区愛宕1-3- 4 愛宕東洋ビル12F	
大学院全体		165	-	286	-	1.39	-	-	-	
工学研究科博士後期 課程	3	43	-	129		0.07	-	-	-	
機械工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.13	-	昭和55年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
環境土木工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.06	-	昭和55年度	同上	
情報工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.20	-	昭和55年度	同上	
電気電子工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.05	-	昭和57年度	同上	
システム設計工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)又は (学術)	0.10	-	平成2年度	同上	
バイオ・化学専攻	3	6	-	18	博士 (理工学)	0.00	-	平成2年度	同上	
建築学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.00	-	平成15年度	同上	
高信頼ものづくり 専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.06	-	平成20年度	同上	
大学院全体	3	43	-	129		0.07	-	-	-	
大学の名称	国際高等専門学校									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
国際理工学科	5	90	-	450	準学士 (工学)	0.13	-	平成30年度	石川県金沢市久 安2丁目270番地	
電気電子工学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	昭和37年度	同上	平成30年より学 生募集停止
機械工学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	昭和38年度	同上	平成30年より学 生募集停止
グローバル情報学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	平成27年度	同上	平成30年より学 生募集停止
グローバル情報工学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	平成15年度	同上	平成27年より学 生募集停止
学校全体	5	90	-	450	-	0.13	-	-	-	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び  
高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科及び別科を除く)。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

- ・ 本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・ 「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
- ・ 「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今 後 の 実 施 計 画
<p>届 出 時 (30年)</p>	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本学は、平成29年4月の設置届出書において提出した定年に係る「学校法人金沢工業大学就業規則」、「定年退職教職員の再雇用に関する規程」、「人材確保に関する規程」に基づいて運営されています。</p> <p>今回、定年(60歳)を超えた教員が多く在職していることが留意事項のご指摘と考えますが、本学は創設以来、工学は実学であるとの考えから、企業等において技術者、研究者として貢献した方々を積極的に採用しており、専門課程の半数以上に上っています。そのため、どうしても平均年齢が高くなる傾向にあります。</p> <p>年齢構成につきましては、「学校法人金沢工業大学就業規則」の定年年齢60歳になる年度に本人の意思確認を行い「人材確保に関する規程」に基づき在職延長を決定しています。本学科の教員についても65歳まで、教授のうち大学院指導教授については70歳までの雇用を確保しています。</p> <p>今年度本学科は、50歳、59歳の教授を採用し、教授25名の内60歳以下の教授が14名、准教授5名、講師は平成31年4月に37歳講師を本学科への異動で3名の在籍を計画しています。前述の教員の採用および異動と、教員の年齢および人数を考慮すると完成年度には設置基準を満たすと同時に学生への十分な教育が行える教員組織編制であると考えますが、今後も年齢構成につきましては、引き続き改善を図ってまいります。</p>	<p>履行済</p>	<p>平成31年4月に、37歳講師を本学科へ異動計画しています。</p> <p>教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることがないように今後も務めてまいります。</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (30年)</p>	<p>該当なし</p>				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <工学部 電気電子工学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
○施設・設備の整備状況 ・図書 572, 306冊	・学生の修学環境を改善するため、図書を10, 385冊増書した。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・添付資料1参照</li> </ul> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・添付資料2参照</li> </ul> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・添付資料3参照</li> </ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート</li> <li>・KIT-FD研修会</li> <li>・教育フォーラム</li> <li>・工学教育研究誌「KIT Progress」の発行</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート</li> </ul> <p>授業改善に学生の意見を取り入れる方法として、全ての開講クラスで授業アンケートを実施している。授業アンケートは、記名式のアンケート用紙を授業の中で行われる自己点検授業時間で配布し、クラスの代表者が記入されたアンケート用紙をまとめて教務課に提出する。授業アンケート結果は約1ヶ月後に学内イントラネットで開示され、授業担当教員は、この授業アンケート結果に対してフィードバックコメントを学内イントラネット上のシステムに入力することになっており、このフィードバックコメントも学内イントラネットで開示される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KIT-FD研修会</li> </ul> <p>本学では、全教員を対象とした”KIT-FD研修会”を実施しており、特に教育技術の改善に関する指導に注力している。研修は5日間終日で構成されており、まず、学長より本学の教育理念、教育目標、教育改革のプロセス、教育改善への取り組みについて説明され、続いて、各部長による教育システム、プロジェクトデザイン教育、修学指導などについての講演と指導が行われる。2日目以降には個別の演習を含めた教育研修が行われ、教育技術を専門とする講師を招いて、学生に分かりやすい講義を行うための技法、教材開発、運用方法、時間管理、目標達成度の評価などの研修を受け、学生と教員が相互に教育効果を上げるための基本技術を学習している。また、講義のビデオ撮影による自己分析などを取り入れており、教育技術の個別指導が行われ、研修最終日には研修の成果としてグループごとに発表を行う相互討論を実施している。</p> <p>なお、このKIT-FD研修会は教員全員に最低1回以上の受講が義務付けられており、特に、新任教員は就任1～2年目の受講が指導されている。</p>
---

・教育フォーラム

教育フォーラムは本学が取り組んでいる様々な教育の改善策や成果を全教員と共有することをねらいに開催され、「修学基礎教育課程」の取り組み、「基礎実技教育課程」の取り組みなど専門分野だけでなく本学の教育の特色を表す教育的取り組みや科目について教育成果等が紹介されている。

「教育フォーラム」開催通知は庶務課より全教員に電子メールで通達される。また、全教員に予め配布される大学関係予定表にも掲載されている。

・工学教育研究誌「KIT Progress」の発行

本学が行っている「工学教育」の更なる向上発展に資することをねらいに、KIT Progress編集委員会が設置され、本学教職員および工学教育に関心を持つ学外の有識者を対象に、年1回発行される。各年に全教員を対象として「工学教育」に関するテーマが設定され、そのテーマに沿った論文、論説、事例報告などが応募される。これまで扱われたテーマとしては「専門実験・演習」「工学倫理」「コミュニケーションとプレゼンテーション教育」「専門教育」などがあり、各テーマで10から20件が報告されている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・授業アンケート

各学期に開講される全ての授業科目（開講クラス）に対して授業アンケート用紙を配布しており、その全ての授業科目（開講クラス）で授業アンケート用紙を回収している。その結果は、授業アンケートシステムでアンケート結果を学内イントラネットで教職員及び学生に開示できている。

・KIT-FD研修会

KIT-FD研修会は全学的に実施され、以下に示すような実績があり、毎年新任教員を中心に受講している。ただし、充実した研修を提供するために、一度の参加者数は、15名～20名程度としている。

KIT-FD研修会

開催日程	参加人数
平成30年8月20日（月）～8月24日（金）	17名
平成29年8月22日（火）～8月25日（金）	14名
平成28年9月 5日（月）～9月 8日（木）	17名
平成27年8月25日（火）～8月28日（金）	11名
平成26年9月 2日（火）～9月 5日（金）	20名
平成25年9月 3日（火）～9月 6日（金）	19名
平成24年8月28日（火）～8月31日（金）	21名
平成23年8月30日（火）～9月 2日（金）	20名
平成22年8月31日（火）～9月 3日（金）	7名
平成21年9月 8日（火）～9月11日（金）	15名

・教育フォーラム

平成16年に始まった教育フォーラムは毎年複数回開催され、平成30年度までに54回開催し175テーマが発表された。また、実施後はフォーラムの配布資料および発表資料が学内イントラネットに開示されており、教職員全員がその内容を知ることができる。

・工学教育研究誌「KIT Progress」の発行

平成8年創刊号から平成30年度までに27刊が発行されている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育点検評価部委員会を中心に、下記の取組による授業改善を実施している。

授業アンケート結果は「教員アンケート」による自己分析、「アンケート分析」の回覧による相互評価、科目担当者の打合せによる次年度学習支援計画書（シラバス）の改善などに使用されており、教育技術の継続的改善の基礎データとして活かされている。教育フォーラムの開催や工学教育研究誌「KIT Progress」の発行により、全教員に対する授業改善に関する情報の共有化が図られている。KIT-FD研修会では、本学の教育理念、教育目標、教育改革のプロセス、教育改善への取り組みなど教育についての講演と指導が行われ全教員の意思統一を行うと共に、講義を行うための技法、教材開発、運用方法、時間管理、目標達成度の評価などの研修を受けることで教育効果を上げるための技術の向上を実施している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・授業アンケート

授業改善を目的とした授業アンケートは、共通設問及び科目独自の設問の構成になっており、各学期に開講される全ての授業科目の自己点検授業で実施されている。授業アンケート用紙は学生が回収し、教務課に提出する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

・授業アンケート

集計されたアンケート結果については、学内イントラネットで教職員及び学生に開示している。また、授業アンケート結果について、教員から学生へコメントを返す“フィードバックコメントシステム”を導入し実施している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし



#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 工学部電気電子工学科設置の趣旨及び必要性  
計画どおりで変更なし。

2. 学部、学科等の特色  
計画どおりで変更なし。

3. 工学部及び電気電子工学科の名称及び学位の名称  
計画どおりで変更なし。

##### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

教育課程の編成計画どおりに科目を開講し、授業運営も適切に行われている。また、2年次以降についても変更の予定はない。

##### 5. 教員組織の編成の考え方および特色

平成30年4月に専任常勤の教授（工学博士、博士（工学））2名が採用となり、平成31年4月に講師（博士（工学））1名が異動で加わり、届出時の計画から教授2名増、講師1名増となる。本学科の教員は博士（工学）22名、工学博士8名、博士（理学）1名、理学博士1名、博士（知識科学）1名の全教員が学位を取得しており、本学科の設置の趣旨・目的を達成するために授業等を運営できる十分な教員を配置した教員組織であり問題はない。また、年齢構成は70歳以下3名、65歳以下9名、60歳以下13名、50歳以下5名、40歳以下3名である。

##### 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

教育方法については計画したとおり、基礎教育及び専門教育のそれぞれの授業内容に応じた教育方法が全学及び学科において準備されており問題はない。

履修指導については、1年次の修学アドバイザー（クラス担任）による履修指導体制を取っており、学生個々に対応した履修指導を行なうと共に、ポートフォリオシステムの運用を行なっている。

卒業要件については、計画どおり変更はない。

##### 7. 施設、設備等の整備計画

専門科目の施設、設備については、学生募集を停止した工学部電気電子工学科および電子情報通信工学科の施設、設備を活用するため問題はない。

基礎教育等の施設、設備等について全学で共有しており問題はない。

##### 8. 入学者選抜の概要

入学者選抜についてもアドミッションポリシーの「求める学生像」

- ・ 本学で学ぶ目的や意義が明確な者
- ・ 本学の教育システムを積極的に活用できる者
- ・ 科学技術を学び応用するために求められる基礎学力を身につけている者

を持った入学生を選抜するための5区分の入学試験を実施した。

それぞれの入試については、入試に関する資料及び本学ホームページにおいて公開している。

平成31年度入学者数は、249名（定員240名）と十分な入学者を確保できた。

##### 9. 管理運営

計画どおりで運営されており問題なし。

##### 10. 自己点検・評価

計画どおり教育点検評価部委員会が中心となり全学で実施している授業点検・授業改善の実施を予定しており問題はない。

##### 11. 情報の公開

平成22年12月から必要な情報を探し易いように、トップページに「教育情報の公表」というボタンを設け、冊子形式にまとめたPDFファイルでも情報公開している。ホームページのアドレスは、「[https://www.kanazawa-it.ac.jp/about\\_kit/ir.html#anchor01](https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ir.html#anchor01)」である。

##### 12. 授業内容方法の改善を図るための組織的な取り組み

届出時に計画していた「KIT-FD研修会」、電気電子工学科の「FD研修会」等の開催を計画している。また、教育点検評価部委員会を中心とする教育改善の活動を実施する。これらの活動は、これまでの工学部電気電子工学科および電子情報通信工学科でも実施しており、運用に問題はない。

##### 13. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

全学で実施されているキャリア教育とこれまでの工学部電気電子工学科および電子情報通信工学科で行ってきた進路指導の実施を計画している。既に1年次生に対するキャリア教育が始まっており問題はない。

以上から届出時の計画からの変更はなく問題はない。また、次年度以降についても変更の予定はなく計画に沿った運用を行なう準備を進めている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 2012年 公表（公益財団法人日本高等教育評価機構「自己点検書」）
- ・ 2015年 公表（公益財団法人大学基準協会「自己点検・評価報告書」）

b 公表方法

- ・ 大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和4年度に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （  有 ・  無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （2019年 6月 1日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人金沢工業大学

## (2) 大学名

金沢工業大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒921-8501

石川県野々市市扇が丘7番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イヅミヤ トシオ) 泉屋 利郎 (平成4年6月)	(イヅミヤ ヨシオ) 泉屋 吉郎 (平成30年6月)	辞任のため 平成30年6月1日 (元)
学長	(オオサワ サトシ) 大澤 敏 (平成28年4月)		
学部長	(タカノ ノリユキ) 高野 則之 (平成30年4月)		
学科長等	(ミヤザト シンイチ) 宮里 心一 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工学部 環境土木工学科 学士(工学)	工学関係	4 年	80 人	/	320 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80 ( ) [ ]	-	80 ( ) [ ]	-	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	1.22 倍	— 倍	
志願者数	524 ( ) [ ]	-	631 ( ) [ ]	-	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
受験者数	513 ( ) [ ]	-	617 ( ) [ ]	-	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
合格者数	300 ( ) [ ]	-	288 ( ) [ ]	-	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
B 入学者数	98 ( ) [ ]	-	99 ( ) [ ]	-	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	1.22		1.23								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	98 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	101 [ - ] ( 2 )	- [ - ] ( - )					
2年次	/		90 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )					
3年次			/						
4年次	/								
計			98 [ - ] ( - )		191 [ - ] ( 2 )				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	98 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	191 人	5 人	平成30年度	5 人	0 人	就学意欲の低下(2人)、他の教育機関への転学(2人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
合 計		5 人		5 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{98} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{191} = \boxed{2.61} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<工学部 環境土木工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
修学基礎科目	修学基礎A	1前	2								34
	修学基礎B	1後	2								34
	技術者と社会	2前・後	2								4
	小計(3科目)	-									
人文社会科学・外国語	日本語(日本と日本人)A	2前・後	1								2
	日本語(日本と日本人)B	2前・後	1								2
	科学技術者倫理	3前・後	2								6
	技術マネジメント	3前・後	2								4
	日本文学の世界	4前・2後		2							1
	人間と哲学	4前・2後		2							1
	法と社会	4前・2後		2							1
	経済と社会	4前・2後		2							1
	ころとはたらき	4前・2後		2							2
	ドイツ語圏と日本	4前・2後		2							1
	東アジア諸国の社会と文化	4前・2後		2							2
	アメリカの文化と風土	4前・2後		2							1
	イギリス文化圏の人々と風土	4前・2後		2							1
	韓国の文化と社会	4前・2後		2							1
	芸術へのアプローチ	4前・2後		2							1
	科学技術と社会	4前・2後		2							2
	技術者のためのコミュニケーション	4前・2後		2							1
人間形成基礎科目	国際関係論	3前		2							1
	危機管理論	3前		2							1
	日本国憲法	3前・後		2							2
	ドイツ語Ⅰ	3前		2							1
	ドイツ語Ⅱ	3後		2							1
	中国語Ⅰ	3前		2							2
	中国語Ⅱ	3後		2							2
	韓国語Ⅰ	3前		2							1
	韓国語Ⅱ	3後		2							1
	生涯スポーツ	健康・体づくり	1前	1							
生涯スポーツ演習		1後	1								6
人間と自然	人間と自然セミナーⅠ	1前									4
	人間と自然セミナーⅡ	2前・後									4
	人間と自然セミナーⅢ	3後									4
生涯学習	指定放送大学科目 生涯学習特別講義 工業概論	2前		2							1
	小計(34科目)	-									
英語科目	イングリッシュトピックスⅠ	1前		2							3
	イングリッシュトピックスⅡ	1後		2							8
	イングリッシュトピックスⅢ	1・2前		2							4
	イングリッシュトピックスⅣ	1・2後		2							7
	イングリッシュトピックスⅤ	1・2前		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1・2後		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅡ	2前		2							2
	アカデミックリーディングⅠ	1・2後		2							2

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
修学基礎科目	修学基礎A	1前	2								40
	修学基礎B	1後	2								40
	技術者と社会	2前・後	2								6
	小計(3科目)	-									
人文社会科学・外国語	日本語(日本と日本人)A	2前・後	1								2
	日本語(日本と日本人)B	2前・後	1								3
	科学技術者倫理	3前・後	2								6
	技術マネジメント	3前・後	2								4
	日本文学の世界	4前・2後		2							1
	人間と哲学	4前・2後		2							1
	法と社会	4前・2後		2							1
	経済と社会	4前・2後		2							1
	ころとはたらき	4前・2後		2							2
	ドイツ語圏と日本	4前・2後		2							1
	東アジア諸国の社会と文化	4前・2後		2							2
	アメリカの文化と風土	4前・2後		2							1
	イギリス文化圏の人々と風土	4前・2後		2							1
	韓国の文化と社会	4前・2後		2							1
	芸術へのアプローチ	4前・2後		2							1
	科学技術と社会	4前・2後		2							1
	技術者のためのコミュニケーション	4前・2後		2							1
人間形成基礎科目	国際関係論	3前		2							1
	危機管理論	3前		2							1
	日本国憲法	3前・後		2							2
	ドイツ語Ⅰ	3前		2							1
	ドイツ語Ⅱ	3後		2							1
	中国語Ⅰ	3前		2							2
	中国語Ⅱ	3後		2							2
	韓国語Ⅰ	3前		2							1
	韓国語Ⅱ	3後		2							1
	生涯スポーツ	健康・体づくり	1前	1							
生涯スポーツ演習		1後	1								7
人間と自然	人間と自然セミナーⅠ	1前									4
	人間と自然セミナーⅡ	2前・後									4
	人間と自然セミナーⅢ	3後									4
生涯学習	指定放送大学科目 生涯学習特別講義 工業概論	2前		2							1
	小計(34科目)	-									
英語科目	イングリッシュトピックスⅠ	1前		2							6
	イングリッシュトピックスⅡ	1後		2							8
	イングリッシュトピックスⅢ	1・2前		2							6
	イングリッシュトピックスⅣ	1・2後		2							7
	イングリッシュトピックスⅤ	1・2前		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1・2後		2							4
	ビジネスコミュニケーションⅡ	2前		2							3
	アカデミックリーディングⅠ	1・2後		2							2

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語科目	アカデミックリーディングⅡ	2前		2								1
	ライティングプレゼンテーションⅠ	1-2後		2								2
	ライティングプレゼンテーションⅡ	2前		2								1
	イングリッシュセミナーⅠ	1-2後		2								2
	イングリッシュセミナーⅡ	2前		2								1
	実用英語演習Ⅰ	1前		2								2
	実用英語演習Ⅱ	1前		2								3
インテンシブイングリッシュ	2前		2								1	
その他	日本語教育科目											1
	小計(17科目)	-										
数理基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2									12
	線形代数Ⅱ	1後		2								12
	工学のための数理工(関数・微分)	1前		4								13
	工学のための数理工(積分・微分方程式)	1後		4								15
	機械数学	1後		2								2
	電気数学	1後		2								2
	情報数学	1後		2								2
	環境・建築のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								7
	環境・建築のための数理工(微分・積分)	1後		2								1
	情報のための数学	1前		4								4
	基礎情報数理	1後		2								2
	情報のための統計	1後		2								6
	情報数理A	2前		2								2
	情報数理B	2前		2								2
	アドバンス情報数理A	2後		2								1
	アドバンス情報数理B	2後		2								1
	バイオ・化学のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								3
	バイオ・化学のための統計	1後		2								3
	バイオ・化学のための数理工(微分・積分)	1後		4								3
	基礎化学	18・20・28	2									3
基礎物理	18・20・28	2									5	
基礎生物	2前・後	2									2	
技術者のための統計	2前・後	2									6	
アドバンス数理A	2前		2								7	
アドバンス数理B	2後		2								2	
小計(26科目)	-											
基礎実技科目	プロジェクトデザイン入門(実験)	1前		2								15
	プロジェクトデザインⅠ	1後		2								14
	プロジェクトデザインⅡ	2前		2								12
	プロジェクトデザイン実験(実験)	2後		2								12
	コンピュータ操作の基礎	1前		2								2
小計(5科目)	-											
専門科目	工学大意(環境土木)	1前		2			1					
	土木数理	1前		2			1					
	測量学Ⅰ	1前		2			1					
	環境土木工学設計Ⅰ	1後		2			1					
	測量学Ⅱ	1後		2			1					
	アカデミックライティング	2前		1								
	構造力学Ⅰ	2前		2			1					
	環境材料学	2前		2				1				
	土質力学Ⅰ	2前		2			1					
	水の流れⅠ	2前		2				1				
	測量実習・演習Ⅰ	2前		2						1		
	環境土木工学設計Ⅱ	2後		2				1				
	構造力学Ⅱ	2後		2				1				

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語科目	アカデミックリーディングⅡ	2前		2								2
	ライティングプレゼンテーションⅠ	1-2後		2								2
	ライティングプレゼンテーションⅡ	2前		2								1
	イングリッシュセミナーⅠ	1-2後		2								2
	イングリッシュセミナーⅡ	2前		2								1
	実用英語演習Ⅰ	1後		2								2
	実用英語演習Ⅱ	1後		2								3
インテンシブイングリッシュ	2前		2								1	
その他	日本語教育科目											1
小計(17科目)	-											
数理基礎科目	線形代数Ⅰ	1前		2								17
	線形代数Ⅱ	1後		2								20
	工学のための数理工(関数・微分)	1前		4								18
	工学のための数理工(積分・微分方程式)	1後		4								17
	機械数学	1後		2								5
	電気数学	2後		2								2
	情報数学	1前		2								2
	環境・建築のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								4
	環境・建築のための数理工(微分・積分)	1後		2								9
	情報のための数学	1前		4								5
	基礎情報数理	1前		2								4
	情報のための統計	1後		2								5
	情報数理A	1後		2								4
	情報数理B	2後		2								3
	アドバンス情報数理A	2前		2								1
	アドバンス情報数理B	2後		2								1
	バイオ・化学のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4								3
	バイオ・化学のための統計	1後		2								3
	バイオ・化学のための数理工(微分・積分)	1後		4								3
	基礎化学	18・20・28	2									4
基礎物理	18・20・28	2									5	
基礎生物	2前・後	2									2	
技術者のための統計	2前・後	2									8	
アドバンス数理A	2前		2								6	
アドバンス数理B	2後		2								1	
小計(26科目)	-											
基礎実技科目	プロジェクトデザイン入門(実験)	1前		2								45
	プロジェクトデザインⅠ	1後		2								32
	プロジェクトデザインⅡ	2前		2								42
	プロジェクトデザイン実験(実験)	2後		2								47
	コンピュータ操作の基礎	1前		2								8
小計(5科目)	-											
専門科目	工学大意(環境土木)	1前		2			1					
	土木数理	1前		2			1					
	測量学Ⅰ	1前		2			1					
	環境土木工学設計Ⅰ	1後		2			1					
	測量学Ⅱ	1後		2			1					
	アカデミックライティング	2前		1								
	構造力学Ⅰ	2前		2				1				
	環境材料学	2前		2					1			
	土質力学Ⅰ	2前		2					1			
	水の流れⅠ	2前		2					1			
	測量実習・演習Ⅰ	2前		2					1			1
	環境土木工学設計Ⅱ	2後		2					1			
	構造力学Ⅱ	2後		2					1	1		



【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	鉄筋コンクリート工学	2後	2					1				
	土質力学Ⅱ	2後	2			1						
	水の流れⅡ	2後	2				1					
	都市デザイン	3前		2								2
	土木施工学	3前	2			1						
	測量実習・演習Ⅱ	3前	2			1						
	構造解析学	3前	2			1						
	地盤解析学	3前	2			1						
	空間情報工学	3前	2			1						
	環境工学Ⅰ	3前	2									2
	防災工学Ⅰ	3前	2			1						
	地域政策学Ⅰ	3前	2			1						
	都市・まちづくり	3後		2								2
	環境土木設計演習	3後	2			1						
	空間情報工学演習	3後	2			1						
	土木設計学	3後	2			1						
	環境工学Ⅱ	3後	2				1					
防災工学Ⅱ	3後	2			1							
地域政策学Ⅱ	3後	2			1							
環境土木専門実験・演習A	3前・3後	3			2	1						
環境土木専門実験・演習B	3前・3後	3			2		1					
地域環境防災フィールド学	4前		2		1							
小計(35科目)	-											
専門プロジェクト	専門ゼミ	3後	1									
	プロジェクトデザインⅢ	4通	8									
	小計(2科目)	-										
その他	進路セミナーⅠ	3前		1								
	進路セミナーⅡ	3後		1								
	職業指導	4前・後		4								1
小計(3科目)	-											
合計(125科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
4年以上在学し、かつ、下記の単位を修得し、生涯学習科目における指定放送大学科目の履修及び人間と自然科目に合格しなければならない。 「修学基礎科目」から6単位以上、「人間形成基礎科目」から12単位以上、「英語科目」から8単位以上、「数理基礎科目」から16単位以上、「基礎実技科目」から8単位以上、「専門科目」から59単位以上、「専門プロジェクト科目」から9単位以上、「人文社会科学・外国語、生涯学習、英語、数理基礎、基礎実技及び専門の科目群」から課程共通の6単位を修得し、全ての必修科目を含め、124単位以上を修得しなければならない。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間)、24単位(学期))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	鉄筋コンクリート工学	2後	2							1		
	土質力学Ⅱ	2後	2					1				
	水の流れⅡ	2後	2					1				
	都市デザイン	3前		2								2
	土木施工学	3前	2			1						
	測量実習・演習Ⅱ	3前	2			1						
	構造解析学	3前	2			1						
	地盤解析学	3前	2			1						
	空間情報工学	3前	2			1						
	環境工学Ⅰ	3前	2									2
	防災工学Ⅰ	3前	2			1						
	地域政策学Ⅰ	3前	2			1						
	都市・まちづくり	3後		2								2
	環境土木設計演習	3後	2			1						
	空間情報工学演習	3後	2			1						
	土木設計学	3後	2			1						
	環境工学Ⅱ	3後	2				1					
防災工学Ⅱ	3後	2			1							
地域政策学Ⅱ	3後	2			1							
環境土木専門実験・演習A	3前・3後	3			2	1						
環境土木専門実験・演習B	3前・3後	3			2		1					
地域環境防災フィールド学	4前		2		1							
小計(35科目)	-											
専門プロジェクト	専門ゼミ	3後	1									
	プロジェクトデザインⅢ	4通	8									
	小計(2科目)	-										
その他	進路セミナーⅠ	3前		1								
	進路セミナーⅡ	3後		1								
	職業指導	4前・後		4								1
小計(3科目)	-											
合計(125科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
4年以上在学し、かつ、下記の単位を修得し、生涯学習科目における指定放送大学科目の履修及び人間と自然科目に合格しなければならない。 「修学基礎科目」から6単位以上、「人間形成基礎科目」から12単位以上、「英語科目」から8単位以上、「数理基礎科目」から16単位以上、「基礎実技科目」から8単位以上、「専門科目」から59単位以上、「専門プロジェクト科目」から9単位以上、「人文社会科学・外国語、生涯学習、英語、数理基礎、基礎実技及び専門の科目群」から課程共通の6単位を修得し、全ての必修科目を含め、124単位以上を修得しなければならない。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間)、24単位(学期))												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
修学基礎科目	修学基礎A	1前	2									39
	修学基礎B	1後	2									38
	技術者と社会	2前・後	2									4
	小計(3科目)	-										
人文社会科学・外国語	日本学(日本と日本人)A	2前・後	1									2
	日本学(日本と日本人)B	2前・後	1									2
	科学技術者倫理	3前・後	2									6
	技術マネジメント	3前・後	2									4
	日本文学の世界	98・128・128	2									1
	人間と哲学	98・128・128	2									1
	法と社会	98・128・128	2									1
	経済と社会	98・128・128	2									1
	こころとはたらき	98・128・128	2									2
	ドイツ語圏と日本	98・128・128	2									1
	東アジア諸国の社会と文化	98・128・128	2									
	アメリカの文化と風土	98・128・128	2									1
	イギリス文化圏の人々と風土	98・128・128	2									1
	韓国の文化と社会	98・128・128	2									1
	芸術へのアプローチ	98・128・128	2									1
	科学技術と社会	98・128・128	2									2
	技術者のためのコミュニケーション	98・128・128	2									1
	国際関係論	3前	2									1
	危機管理論	3前	2									1
	日本国憲法	3前・後	2									2
	ドイツ語 I	3前	2									1
	ドイツ語 II	3後	2									1
	中国語 I	3前	2									
中国語 II	3後	2										
韓国語 I	3前	2									1	
韓国語 II	3後	2									1	
生涯スポーツ	健康・体力づくり	1前	1									6
	生涯スポーツ演習	1後	1									6
人間と自然	人間と自然セミナーⅠ	1前										4
	人間と自然セミナーⅡ	2前・後										4
	人間と自然セミナーⅢ	3後										4
生涯学習	指定放送大学科目 生涯学習特別講義 工業概論	2前	2									1
	小計(34科目)	-										
英語科目	イングリッシュトピックスⅠ	1前	2									4
	イングリッシュトピックスⅡ	1後	2									8
	イングリッシュトピックスⅢ	1・2前	2									8
	イングリッシュトピックスⅣ	1・2後	2									7
	イングリッシュトピックスⅤ	1・2前	2									5
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1・2後	2									4
	ビジネスコミュニケーションⅡ	2前	2									4
	アカデミックリーディングⅠ	1・2後	2									2
	アカデミックリーディングⅡ	2前	2									2
	ライティング・プレゼンテーションⅠ	1・2後	2									2
	ライティング・プレゼンテーションⅡ	2前	2									2
	イングリッシュセミナーⅠ	1・2後	2									2
	イングリッシュセミナーⅡ	2前	2									2
	実用英語演習Ⅰ	2後	2									2
実用英語演習Ⅱ	1後	2									3	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
英語科目	インテンシブイングリッシュ	2前		2							1
	日本語教育科目										1
	小計(17科目)	-									
数理基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2								16
	線形代数Ⅱ	1後		2							21
	工学のための数理工(関数・積分)	1前		4							16
	工学のための数理工(積分・微分方程式)	1後		4							14
	機械数学	1後		2							5
	電気数学	2後		2							
	情報数学	1前		2							2
	環境・建築のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4							5
	環境・建築系数理	1後		2							11
	環境・建築のための数理工(微分・積分)	1後		4							5
	情報のための数学	1前		4							4
	基礎情報数理	1前		2							5
	情報のための統計	1後		2							4
	情報数理A	1後		2							7
	情報数理B	2前		2							
	アドバンス情報数理A	2後		2							1
	アドバンス情報数理B	2後		2							1
	バイオ・化学のための数理工(関数・微積分基礎)	1前		4							3
	バイオ・化学のための統計	1後		2							2
	バイオ・化学のための数理工(微分・積分)	1後		4							3
	基礎化学	1前・2前		2							4
	基礎物理	1前・2前		2							6
	基礎生物	2前・後		2							2
	技術者のための統計	2前・後		2							6
	アドバンス数理A	2前		2							7
	アドバンス数理B	2後		2							2
小計(26科目)	-										
基礎実技科目	プロジェクトデザイン入門(実験)	1前	2								51
	プロジェクトデザインⅠ	1後	2								30
	プロジェクトデザインⅡ	2前	2								12
	プロジェクトデザイン実験(実験)	2後	2								12
	コンピュータ操作の基礎	1前		2							8
小計(5科目)	-										
専門科目	工学大意(環境土木)	1前	2			1					
	土木数理	1前	2			1					
	測量学Ⅰ	1前	2			1					
	環境土木工学設計Ⅰ	1後	2			1					
	測量学Ⅱ	1後	2			1					
	アカデミックライティング	2前	1								
	構造力学Ⅰ	2前	2			1					
	環境材料学	2前	2					1			
	土質力学Ⅰ	2前	2			1					
	水の流れⅠ	2前	2				1				
	測量実習・演習Ⅰ	2前	2			1					1
	環境土木工学設計Ⅱ	2後	2			1					
	構造力学Ⅱ	2後	2			1					
	鉄筋コンクリート工学	2後	2					1			
	土質力学Ⅱ	2後	2			1					
	水の流れⅡ	2後	2				1				
	都市デザイン	3前		2							2
	土木施工学	3前	2			1					
	測量実習・演習Ⅱ	3前	2			1					
	構造解析学	3前	2			1					
地盤解析学	3前	2			1						

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	空間情報工学	3前		2		1					
	環境工学 I	3前		2							2
	防災工学 I	3前		2		1					
	地域政策学 I	3前		2		1					
	都市・まちづくり	3後		2							2
	環境土木設計演習	3後	2			1					
	空間情報工学演習	3後		2		1					
	土木設計学	3後		2		1					
	環境工学 II	3後		2			1				
	防災工学 II	3後		2		1					
	地域政策学 II	3後		2		1					
	環境土木専門実験・演習 A	3前・3後	3			2	1				
環境土木専門実験・演習 B	3前・3後	3			2		1				
地域環境防災フィールド学	4前		2		1						
小計(35科目)		-									
専門プロジェクト	専門ゼミ	3後	1								
	プロジェクトデザインⅢ	4通	8								
	小計(2科目)	-									
その他	進路セミナー I	3前		1							
	進路セミナー II	3後		1							
	職業指導	4前・後		4							1
小計(3科目)		-									
合計(125科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
<p>4年以上在学し、かつ、下記の単位を修得し、生涯学習科目における指定放送大学科目の履修及び人間と自然科目に合格しなければならない。  「修学基礎科目」から6単位以上、「人間形成基礎科目」から12単位以上、「英語科目」から8単位以上、「数理基礎科目」から16単位以上、「基礎実技科目」から8単位以上、「専門科目」から59単位以上、「専門プロジェクト科目」から9単位以上、「人文社会科学・外国語、生涯学習、英語、数理基礎、基礎実技及び専門の科目群」から課程共通の6単位を修得し、全ての必修科目を含め、124単位以上を修得しなければならない。  (履修科目の登録の上限:48単位(年間)、24単位(学期))</p>											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

- ・ 授業科目運営上の理由により、「実用英語演習Ⅰ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「実用英語演習Ⅱ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「電気数学」の配当年次を「1後」から「2後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「情報数学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「基礎情報数理」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「情報数理A」の配当年次を「2前」から「1後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「修学基礎科目、人間形成基礎科目、英語科目、数理基礎科目、基礎実技科目」の一部科目において、兼任・兼任教員の人数を変更。

**【令和元年度】**

- ・ 授業科目運営上の理由により、「情報数理B」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「アドバンス情報数理A」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「構造力学Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「構造力学Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「土質力学Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「土質力学Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・ 授業科目運営上の理由により、「修学基礎科目、人間形成基礎科目、英語科目、数理基礎科目、基礎実技科目」の一部科目において、兼任・兼任教員の人数を変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
41 科目	84 科目	0 科目	125 科目	41 科目 [ ]	84 科目 [ ]	0 科目 [ ]	125 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{125} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	国際高等専門学校と共用 法令上の必要面積 67,200 m <sup>2</sup> 運動場用地 (バス利用30分、9km)			
	校舎敷地	83,415.72 m <sup>2</sup>	233,876.39 m <sup>2</sup>	11,602.00 m <sup>2</sup>	328,894.11 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	0 m <sup>2</sup>	205,687.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	205,687.00 m <sup>2</sup>				
	小 計	83,415.72 m <sup>2</sup>	439,563.39 m <sup>2</sup>	11,602.00 m <sup>2</sup>	534,581.11 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	76,987.00 m <sup>2</sup>	36,880.12 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	113,867.12 m <sup>2</sup>				
合 計	160,402.72 m <sup>2</sup>	476,443.51 m <sup>2</sup>	11,602.00 m <sup>2</sup>	648,448.23 m <sup>2</sup>					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	国際高等専門学校と共用 法令上の必要面積 70,147 m <sup>2</sup> 校舎を新築、増築 (元)				
	180,157.86 m <sup>2</sup> <del>178,951.96 m<sup>2</sup></del> ( 178,951.96 m <sup>2</sup> )	23,236.50 m <sup>2</sup> <del>20,755.98 m<sup>2</sup></del> ( 20,755.98 m <sup>2</sup> )	20,921.42 m <sup>2</sup> <del>20,622.37 m<sup>2</sup></del> ( 20,622.37 m <sup>2</sup> )	224,315.78 m <sup>2</sup> <del>220,330.31 m<sup>2</sup></del> ( 220,330.31 m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	85 室	119 室	114 室	6 室 (補助職員 2 人)	1 室 (補助職員 1 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		退職及び新規採用の結果、 6名減となった (30)			
	大学全体			298 304 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学生の修学環境の改善のため (元)	
	大学全体	572,306 [140,404] <del>561,921 [139,650]</del> (572,306 [140,404])	701 [19] <del>722 [21]</del> (701 [19])	322 [307] <del>315 [300]</del> (322 [307])	12,753 <del>24,753</del> ( 12,753 )	1,812 <del>1,575</del> (1,812)	0 <del>0</del> ( 0 )		
	計	572,306 [140,404] <del>561,921 [139,650]</del> (572,306 [140,404])	701 [19] <del>722 [21]</del> (701 [19])	322 [307] <del>315 [300]</del> (322 [307])	12,753 <del>24,753</del> ( 12,753 )	1,812 <del>1,575</del> (1,812)	0 <del>0</del> ( 0 )		
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	8,155.13 m <sup>2</sup>		1,617 席		1,000,000 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	7,085.83 m <sup>2</sup>		天池自然学苑 (運動用地) 205,687.00 m <sup>2</sup>   野球場1面、陸上競技場、ゴルフ場、テニスコート4面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には電子ジャーナル、データベースを含む
		教員1人当り研究費等	1,430千円	1,430千円	図書購入費	4,800千円	4,800千円	4,800千円	
	共同研究費等	4,900千円	4,900千円	設備購入費	3,200千円	3,200千円	3,200千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,343千円	第2年次 1,515千円	第3年次 1,515千円	第4年次 1,515千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、寄附金収入、補助金収入、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号 (その1の1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	金沢工業大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
<b>工学部</b>	4	880	-	3,520	学士 (工学)	1.13	-	昭和40年度	-	
機械工学科	4	200	-	800	学士 (工学)	1.08	-	昭和40年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
航空システム工学科	4	60	-	240	学士 (工学)	1.10	-	平成16年度	同上	
ロボティクス学科	4	100	-	400	学士 (工学)	1.12	-	平成16年度	同上	
電気電子工学科	4	240	-	960	学士 (工学)	1.05	-	平成30年度	同上	
電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
電子情報通信工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
情報工学科	4	200	-	800	学士 (工学)	1.20	-	平成24年度	同上	
環境土木工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.22	-	平成30年度	同上	
情報フロンティア学部	4	240	-	960	学士 (情報学)	1.01	-	平成16年度	-	
メディア情報学科	4	120	-	480	学士 (情報学)	1.26	-	平成16年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
経営情報学科	4	60	-	240	学士 (情報学)	0.82	-	平成16年度	同上	
心理科学科	4	60	-	240	学士 (情報学)	0.73	-	平成16年度	同上	
建築学部	4	200	-	800	学士 (工学)	1.12	-	平成30年度	-	
建築学科	4	200	-	800	学士 (工学)	1.12	-	平成30年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
環境・建築学部	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	-	
建築デザイン学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	平成30年より学 生募集停止
建築学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
環境土木工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	平成16年度	同上	平成30年より学 生募集停止
バイオ・化学部	4	160	-	640	学士 (理工学)	0.95	-	平成20年度	-	
応用化学科	4	80	-	320	学士 (理工学)	0.91	-	平成20年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
応用バイオ学科	4	80	-	320	学士 (理工学)	1.00	-	平成20年度	同上	
大学全体	4	1,480	-	5,920	-	1.07	-	-	-	
工学研究科博士前期 (修士)課程		119	-	234		1.54	-	-	-	
機械工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	3.82	-	昭和53年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
環境土木工学専攻	2	10	-	20	修士 (工学)	0.75	-	昭和53年度	同上	
情報工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	0.80	-	昭和53年度	同上	
電気電子工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	2.19	-	昭和55年度	同上	
システム設計工学専攻	2	8	-	16	修士 (工学)	1.00	-	平成2年度	同上	
バイオ・化学専攻	2	18	-	36	修士 (理工学)	1.07	-	平成2年度	同上	



建築学専攻	2	16	-	32	修士 (工学)	1.12	-	昭和55年度	同上	
高信頼ものづくり 専攻(2年制)	2	3	-	6	修士 (工学)	0.85	-	平成19年度	同上	
高信頼ものづくり 専攻(1年制)	1	4	-	4	修士 (工学)	0.00	-	平成19年度	同上	
ビジネスアーキテ クト専攻(2年制)	2	6	-	12	修士 (工学)又は (経営情報)	0.24	-	昭和57年度	同上	
ビジネスアーキテ クト専攻(1年制)	1	-	-	-	修士 (工学)又は (経営情報)	-	-	平成21年度	東京都港区愛宕1-3- 4 愛宕東洋ビル12F	平成28年より学 生募集停止
心理科学研究科修士課程	2	6	-	12		0.91	-	-	-	
臨床心理学専攻	2	6	-	12	修士 (心理学)	0.91	-	平成16年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
イノベーションマネ ジメント研究科修士課程	1	40	-	40		1.04	-	-	-	
イノベーション マネジメント専攻	1	40	-	40	修士 (経営管理) 又は(知的財 産マネジメント)	1.04	-	平成28年度	東京都港区愛宕1-3- 4 愛宕東洋ビル12F	
大学院全体		165	-	286	-	1.39	-	-	-	
工学研究科博士後期 課程	3	43	-	129		0.07	-	-	-	
機械工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.13	-	昭和55年度	石川県野々市市 扇が丘7番1号	
環境土木工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.06	-	昭和55年度	同上	
情報工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.20	-	昭和55年度	同上	
電気電子工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.05	-	昭和57年度	同上	
システム設計工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)又は (学術)	0.10	-	平成2年度	同上	
バイオ・化学専攻	3	6	-	18	博士 (理工学)	0.00	-	平成2年度	同上	
建築学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.00	-	平成15年度	同上	
高信頼ものづくり 専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.06	-	平成20年度	同上	
大学院全体	3	43	-	129		0.07	-	-	-	
大学の名称	国際高等専門学校									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
国際理工学科	5	90	-	450	準学士 (工学)	0.13	-	平成30年度	石川県金沢市久 安2丁目270番地	
電気電子工学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	昭和37年度	同上	平成30年より学 生募集停止
機械工学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	昭和38年度	同上	平成30年より学 生募集停止
グローバル情報学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	平成27年度	同上	平成30年より学 生募集停止
グローバル情報工学科	5	-	-	-	準学士 (工学)	-	-	平成15年度	同上	平成27年より学 生募集停止
学校全体	5	90	-	450	-	0.13	-	-	-	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び  
高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科及び別科を除く)。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

- ・ 本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・ 「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
- ・ 「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>届 出 時  (30年)</p>	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想を策定し、着実に実行すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本学は、平成29年4月の設置届出書において提出した定年に係る「学校法人金沢工業大学就業規則」、「定年退職教職員の再雇用に関する規程」、「人材確保に関する規程」に基づいて運営されています。今回、定年(60歳)を超えた教員が多く在職していることが留意事項のご指摘と考えますが、本学は創設以来、工学は実学であるとの考えから、企業等において技術者、研究者として貢献した方々を積極的に採用しており、専門課程の半数以上に上っています。そのため、どうしても平均年齢が高くなる傾向にあります。</p> <p>年齢構成につきましては、「学校法人金沢工業大学就業規則」の定年年齢60歳になる年度に本人の意思確認を行い「人材確保に関する規程」に基づき在職延長を決定しています。本学科の教員についても65歳まで、教授のうち大学院指導教授については70歳までの雇用を確保しています。</p> <p>なお、平成31年4月に39歳准教授を本学科へ異動計画しています。年齢構成につきましては、引き続き改善を図ってまいります。</p> <p>履行中</p> <p>平成31年4月に、39歳准教授を本学科へ異動計画しています。教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることがないよう今後も務めてまいります。</p>

<p>設置計画履行状況 調査時 (30年)</p>	<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえつつ適切な教員組織の編制に努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>今回、定年(60歳)を超えた教員が多く在職していることが改善意見のご指摘と考えますが、上述の通り、本学は創設以来、工学は実学であるとの考えから、企業等において技術者、研究者として貢献した方々を積極的に採用しており、専門課程の半数以上に上っています。そのため、どうしても平均年齢が高くなる傾向にあります。今年度は39歳准教授を、また、令和2年4月に50歳准教授を、本学科への異動で准教授3名の在籍を計画しています。年齢構成につきましては、引き続き改善を図ってまいります。</p>	<p>履行中</p>	<p>令和2年4月に、50歳准教授を本学科へ異動計画しています。教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることがないように今後も務めてまいります。</p>
-----------------------------------	---	----------------------	---	------------	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<工学部 環境土木工学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
○施設・設備の整備状況 ・図書 572, 306冊	・学生の修学環境を改善するため、図書を10, 385冊増書した。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・添付資料1参照</li> </ul> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・添付資料2参照</li> </ul> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・添付資料3参照</li> </ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート</li> <li>・KIT-FD研修会</li> <li>・教育フォーラム</li> <li>・工学教育研究誌「KIT Progress」の発行</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート</li> </ul> <p>授業改善に学生の意見を取り入れる方法として、全ての開講クラスで授業アンケートを実施している。授業アンケートは、記名式のアンケート用紙を授業の中で行われる自己点検授業時間で配布し、クラスの代表者が記入されたアンケート用紙をまとめて教務課に提出する。授業アンケート結果は約1ヶ月後に学内イントラネットで開示され、授業担当教員は、この授業アンケート結果に対してフィードバックコメントを学内イントラネット上のシステムに入力することになっており、このフィードバックコメントも学内イントラネットで開示される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KIT-FD研修会</li> </ul> <p>本学では、全教員を対象とした”KIT-FD研修会”を実施しており、特に教育技術の改善に関する指導に注力している。研修は5日間終日で構成されており、まず、学長より本学の教育理念、教育目標、教育改革のプロセス、教育改善への取り組みについて説明され、続いて、各部長による教育システム、プロジェクトデザイン教育、修学指導などについての講演と指導が行われる。2日目以降には個別の演習を含めた教育研修が行われ、教育技術を専門とする講師を招いて、学生に分かりやすい講義を行うための技法、教材開発、運用方法、時間管理、目標達成度の評価などの研修を受け、学生と教員が相互に教育効果を上げるための基本技術を学習している。また、講義のビデオ撮影による自己分析などを取り入れており、教育技術の個別指導が行われ、研修最終日には研修の成果としてグループごとに発表を行う相互討論を実施している。</p> <p>なお、このKIT-FD研修会は教員全員に最低1回以上の受講が義務付けられており、特に、新任教員は就任1～2年目の受講が指導されている。</p>
---

・教育フォーラム

教育フォーラムは本学が取り組んでいる様々な教育の改善策や成果を全教員と共有することをねらいに開催され、「修学基礎教育課程」の取り組み、「基礎実技教育課程」の取り組みなど専門分野だけでなく本学の教育の特色を表す教育的取り組みや科目について教育成果等が紹介されている。

「教育フォーラム」開催通知は庶務課より全教員に電子メールで通達される。また、全教員に予め配布される大学関係予定表にも掲載されている。

・工学教育研究誌「KIT Progress」の発行

本学が行っている「工学教育」の更なる向上発展に資することをねらいに、KIT Progress編集委員会が設置され、本学教職員および工学教育に関心を持つ学外の有識者を対象に、年1回発行される。各年に全教員を対象として「工学教育」に関するテーマが設定され、そのテーマに沿った論文、論説、事例報告などが応募される。これまで扱われたテーマとしては「専門実験・演習」「工学倫理」「コミュニケーションとプレゼンテーション教育」「専門教育」などがあり、各テーマで10から20件が報告されている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・授業アンケート

各学期に開講される全ての授業科目（開講クラス）に対して授業アンケート用紙を配布しており、その全ての授業科目（開講クラス）で授業アンケート用紙を回収している。その結果は、授業アンケートシステムでアンケート結果を学内イントラネットで教職員及び学生に開示できている。

・KIT-FD研修会

KIT-FD研修会は全学的に実施され、以下に示すような実績があり、毎年新任教員を中心に受講している。ただし、充実した研修を提供するために、一度の参加者数は、15名～20名程度としている。

KIT-FD研修会

開催日程	参加人数
平成30年8月20日（月）～8月24日（金）	17名
平成29年8月22日（火）～8月25日（金）	14名
平成28年9月 5日（月）～9月 8日（木）	17名
平成27年8月25日（火）～8月28日（金）	11名
平成26年9月 2日（火）～9月 5日（金）	20名
平成25年9月 3日（火）～9月 6日（金）	19名
平成24年8月28日（火）～8月31日（金）	21名
平成23年8月30日（火）～9月 2日（金）	20名
平成22年8月31日（火）～9月 3日（金）	7名
平成21年9月 8日（火）～9月11日（金）	15名

・教育フォーラム

平成16年に始まった教育フォーラムは毎年複数回開催され、平成30年度までに54回開催し175テーマが発表された。また、実施後はフォーラムの配布資料および発表資料が学内イントラネットに開示されており、教職員全員がその内容を知ることができる。

・工学教育研究誌「KIT Progress」の発行

平成8年創刊号から平成30年度までに27刊が発行されている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育点検評価部委員会を中心に、下記の取組による授業改善を実施している。

授業アンケート結果は「教員アンケート」による自己分析、「アンケート分析」の回覧による相互評価、科目担当者の打合せによる次年度学習支援計画書（シラバス）の改善などに使用されており、教育技術の継続的改善の基礎データとして活かされている。教育フォーラムの開催や工学教育研究誌「KIT Progress」の発行により、全教員に対する授業改善に関する情報の共有化が図られている。KIT-FD研修会では、本学の教育理念、教育目標、教育改革のプロセス、教育改善への取り組みなど教育についての講演と指導が行われ全教員の意思統一を行うと共に、講義を行うための技法、教材開発、運用方法、時間管理、目標達成度の評価などの研修を受けることで教育効果を上げるための技術の向上を実施している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・ 授業アンケート

授業改善を目的とした授業アンケートは、共通設問及び科目独自の設問の構成になっており、各学期に開講される全ての授業科目の自己点検授業で実施されている。授業アンケート用紙は学生が回収し、教務課に提出する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

・ 授業アンケート

集計されたアンケート結果については、学内イントラネットで教職員及び学生に開示している。また、授業アンケート結果について、教員から学生へコメントを返す“フィードバックコメントシステム”を導入し実施している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし



#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 工学部環境土木工学科設置の趣旨及び必要性  
計画どおりで変更なし。
2. 学部、学科等の特色  
計画どおりで変更なし。
3. 工学部及び環境土木工学科の名称及び学位の名称  
計画どおりで変更なし。
4. 教育課程の編成の考え方及び特色  
教育課程の編成計画どおりに科目を開講し、授業運営も適切に行われている。また、2年次以降についても変更の予定はない。
5. 教員組織の編成の考え方および特色  
平成31年3月に教授1名が退職、教授1名が異動のため、届出時の計画から教授2名減となったが、平成31年4月に准教授（博士（工学））1名が異動で加わり、令和2年4月に准教授（博士（工学））1名が異動で加わる予定であり、届出時の計画から准教授2名増となる。本学科の教員は博士（工学）6名、工学博士2名の全教員が学位を取得しており、本学科の設置の趣旨・目的を達成するために授業等を運営できる十分な教員を配置した教員組織であり問題はない。また、年齢構成は70歳以下1名、65歳以下1名、60歳以下2名、50歳以下3名、40歳以下1名である。
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件  
教育方法については計画したとおり、基礎教育及び専門教育のそれぞれの授業内容に応じた教育方法が全学及び学科において準備されており問題はない。  
履修指導については、1年次の修学アドバイザー（クラス担任）による履修指導体制を取っており、学生個々に対応した履修指導を行なうと共に、ポートフォリオシステムの運用を行なっている。  
卒業要件については、計画どおり変更はない。
7. 施設、設備等の整備計画  
専門科目の施設、設備については、学生募集を停止した環境・建築学部環境土木工学科の施設、設備を活用するため問題はない。  
基礎教育等の施設、設備等について全学で共有しており問題はない。
8. 入学者選抜の概要  
入学者選抜についてもアドミッションポリシーの「求める学生像」
  - ・ 本学で学ぶ目的や意義が明確な者
  - ・ 本学の教育システムを積極的に活用できる者
  - ・ 科学技術を学び応用するために求められる基礎学力を身につけている者を持った入学生を選抜するための5区分の入学試験を実施した。  
それぞれの入試については、入試に関する資料及び本学ホームページにおいて公開している。  
平成31年度入学者数は、99名（定員80名）と十分な入学者を確保できた。
9. 管理運営  
計画どおりで運営されており問題なし。
10. 自己点検・評価  
計画どおり教育点検評価部委員会が中心となり全学で実施している授業点検・授業改善の実施を予定しており問題はない。
11. 情報の公開  
平成22年12月から必要な情報を探し易いように、トップページに「教育情報の公表」というボタンを設け、冊子形式にまとめたPDFファイルでも情報公開している。ホームページのアドレスは、「[https://www.kanazawa-it.ac.jp/about\\_kit/ir.html#anchor01](https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ir.html#anchor01)」である。
12. 授業内容方法の改善を図るための組織的な取り組み  
届出時に計画していた「KIT-FD研修会」、環境土木工学科の「FD研修会」等の開催を計画している。また、教育点検評価部委員会を中心とする教育改善の活動を実施する。これらの活動は、これまでの環境・建築学部環境土木工学科でも実施しており、運用に問題はない。
13. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制  
全学で実施されているキャリア教育とこれまでの環境・建築学部環境土木工学科で行ってきた進路指導の実施を計画している。既に1年次生に対するキャリア教育が始まっており問題はない。

以上から届出時の計画からの変更はなく問題はない。また、次年度以降についても変更の予定はなく計画に沿った運用を行なう準備を進めている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 2012年 公表（公益財団法人日本高等教育評価機構「自己点検書」）
- ・ 2015年 公表（公益財団法人大学基準協会「自己点検・評価報告書」）

b 公表方法

- ・ 大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和4年度に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （  有 ・  無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （2019年 6月 1日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。